

土地收用法ニ就テ

土木學會誌

第二卷第三號

大正五年六月

工學士 佐藤 四郎

無味乾燥ナル技術論ニ倦厭タル吾人ハ土木學會ニ於テ岡野博士ヨリ土地收用法ニ就テ趣味津

々タル法理論ヲ聽クヲ得タルハ眞ニ萬縁叢中紅一點ノ感ナクンハ非ラス偶々吾人ト共ニ博士
ノ講演ヲ聽ケル友人法學士池田宏君ニ質タスニ其感想奈何ヲ以テセルニ同君ハ吾人ニ語ルニ
左ノ數節ヲ以テセラレタリ依テ爰ニ其ノ梗概ヲ錄シテ討議ニ代フト云爾

第一收用法ト土木事業ニ收用法ニ依リテ事業認定ヲ受ケタルモノト事件數ヲ見ルニ近年頗ニ増
加シ年々二百件以上ヲ算シ之ヲ數年前ニ比スレハ四倍ニ達スルニ至レリ試ニ之ヲ種類別ニ分類
スルニ明治二十二年法律發布以來二十五年間ニ於ケル總件數二三八八件中土木事業ニ屬スルモ
ノ實三一、八三二件(内譯道路橋樑溝渠ニ關スルモノ八一七件、鐵道五八)ノ多キニ達シ之ヲ最近五ケ年間
ノ事實ニ徵スルニ毎年平均總件數一八二件中一四〇件(道路五一件、鐵道四六件、内輕鐵一五件、軌道二七
ハ土木事業ニ屬スルヲ見ル由是觀之ハ收用法ハ殆ト土木事業ノ爲ニ存スルノ觀アリト云フモ決
シテ過言ニ非サル實況ナリ而シテ我國ニ於ケル土木事業ハ今後益勃興スヘキニ依リ收用法ノ適
用ハ益多キヲ加ヘン然ルニ大正二年ニ於ケル土木關係收用事件一七一件中ニ付其ノ起業者ノ何
人ナルカラ檢スルニ其ノ專門シ法學ノ知識アル者ヲ聘用スルヲ得ル中央官廳ノ起業ニ係ルモノ

612

小僅ニ三十四件ニ過キス一七件ハ地方行政廳五〇件ハ下級公共團體七〇件ハ會社ノ起業ニ係リ
 通常法學ノ知識ニハ精シトハ云フヲ得サル土木工學者ニ依リテ適用セラル、ヲ原則トスルニ似
 タリ想フテ茲ニ至レハ我國土木工學者ノ責任ハ頗ル重要ナリト謂ハサル可ラス然ルニ收用法ハ
 必スシモ單純ナル手續法ニ非ラスシテ隨分難解ナル法理ヲ含ミ規定自體亦解釋上論議ノ餘地少
 カラサルニ之ニ關スル著述ニモ乏シク專門ノ學者間ニモ意見ノ一致ヲ見ス未タ判決例ヲモ得サ
 ル事件多キヲ占メ研究ノ餘地多キカ故ニ博士ノ如キ權威アル學者カ其ノ職務ノ内外ニ於テ研鑽
 セラレタル結果ヲ世間ニ公表セラレ以テ漸ク據ル所アラシメントスルハ誠ニ斯界ノ慶事ト謂フ
 ヘク之ヲ紹介シタル學會ノ功績ハ頗大ナルモノアルヘキヲ信ス殊ニ其ノ第一著手トシテ收用法
 ヲ被收用者ノ側ヨリ觀察シテ其ノ壓制的ナリト思ハル、箇條ニ付キテ詳述ヲ試ミラレ無暗ニ法
 律ノ正文ヲ楯下シテ官權主義ヲ振廻ハシ土地所有者ニ壓迫ヲ加フルコトナキ様諄々トシテ注意
 セラレタル一節ハ宛カモ行政官各各部長官ヨリ主務ニ付キ訓示演說ヲ聽クカ如ク流石ハ私法
 ノ泰斗トシテ違法行政處分ニ因ル權利ノ救濟ヲ以テ任トセラル、博士ノ所論トシテ頗ル傾聽ヲ
 値セリ唯時間ノ關係上博士ノ講演カ被收用者ヨリ觀タル反面ニ限局セラレ其以外ニ及ハサリシ
 ハ甚遺憾ニ堪ヘス余輩ハ博士ノ如キ碩學カ益實際問題ヲ捉ヘテ快刀亂麻ヲ斷ツカ如キ概ヲ以テ
 其雄論ヲ公表シテ斯界ヲ指導シ職ニ收用法ニ關スル者ノ間ニ歸一スル所アルニ至ラシメラレン
 コトヲ期望シテ已マス從テ又博士カ講演ノ終ニ於テ公約セラレタル他ノ好機會ノ一日モ早ク到
 來センコトヲ切ニ祈ル者ナリ

第二解釋論ヨリ見タル博士ノ說 博士ハ身ヲ被收用者ノ立場ニ置キテ巧ニ收用法ノ規定中壓制
 ナリト觀察スヘキ箇條ヲ抽出シテ極メテ簡明ニ解釋ヲ加ヘラル、ト同時ニ重要ナル立法論ヲ試
 ミ犀利ナル論鋒ヲ以テ縱橫無盡ニ現行法ノ不用意ナル點ヲ指摘シ現行法規ノ範圍内ニ於テ取扱

フ鄭重ニシ以テ土地所有者側ノ苦痛ヲ緩和スルニ務ムヘキコトヲ訓ヘラル、コト頗ル切實懇篤
 到ラサルナク大ニ余輩ノ爲ニ啓蒙ニ資セルモノアリ中ニ就キ注意スヘキモノ二三アリ依テ左ニ
 少シク述フル所アラン、
 一、調書ノ效力、現行法ハ補償ニ對シ協議ヲ開始スル以前ニ於テ豫メ補償額算定ノ方法ヲ定メ
 サルトキハ起業者ハ困難ナルハ勿論土地所有者及關係人亦不慮ノ損失ヲ蒙リ爲ニ争訟ヲ惹起ス
 ルコト多キヲ慮リ豫メ土地物件ニ關スル調書ヲ作製セシムルコトハ爲シタル者ナルヲ以テ此ノ
 調書ノ記載事項ニシテ拘束力ナキニ於テハ調書ヲ作製スルノ利益無キモノト謂ハサル可ラス是
 法律カ明文ヲ以テ特ニ起業者土地所有者及關係人ハ法定調書ノ記載事項ニ對シテ異議ヲ述フル
 コトヲ得ズル規定シタル所以ナリ然レニ此ノ調書ハ起業者又ハ土地所有者及關係人カ必要ト認
 ムルトキニ於テ土地所有者及關係人又ハ起業者ト共ニ作ルル原則トスルモノニシテ調書ヲ作製
 ニ際シテハ往々立會人ノ間ニ意見ノ合致セサルコトアルヲ免レズ此ノ場合ニハ其ノ異議ヲ他日
 ニ留保スルコトヲ得ルヤ將又調書作製ノ拒絕アルモノト看做スヘキヤノ解釋論ニツキ博士ハ前
 説ヲ採リ異議ヲ述フル者アラハ其ノ旨調書ニ記載シテ他日ノ爲ニ其ノ關係ヲ明ニスルハ極メテ
 適當ノ取扱方ナリ若シ異議アルニ拘ラス之ヲ無視シテ調書ニ記載セサツシナラハ其ノ異議ヲ唱
 ヘタル部分ニ付テハ異議ヲ述ヘタル者ヲ拘束セスト論斷セラレタリ惟フニ調書ノ作製ハ起業者
 及土地所有者又ハ關係人立會ノ下ニ作製スルル原則トスヘキモ互ニ利害ノ關係ヲ異ニスルヨリ
 立會ヲ爲サハルコトナキニ非ラス此ノ場合ニ處スルノ途ヲ開クニ非サレハ調書ヲ作製スル立法
 ノ目的ヲ達スルコトヲ得サルニ至ルヘシ於是乎曾テ草案ハ故ナク立會ヲ爲サハルトキハ市町村
 長ノ立會ヲ以テ調書ヲ作製スルコトヲ得ヘキ旨規定シタルコトアルモ後確定案ニハ之ヲ改メテ
 其ノ市町村長ノ立會ヲ以テ調書ヲ作製シ得ヘキ場合ハ土地所有者又ハ關係人カ調書ヲ作ルコト

ヲ拒ミタルトキト爲シタルニ依リ法律ハ起業者及土地所有者又ハ關係人カ現ニ立會フト否トニ係ラス明示又ハ默示ヲ以テ調書ノ作製ヲ拒ミタル場合ニ限リタルモノト謂ハサル可ラス其ノ如何ナル場合ニ調書作製ノ拒絶アリト見ルヘキカハ各場合ノ事實ニツキテ決定スヘキ解釋上ノ問題ナリト雖モ概言スレハイ)收用法ノ規定ニ基キ調書作製ノ爲一定ノ期日一定ノ場所ニ於テ立會フヘキコトヲ求メラレ此ノ要求ハ相手方カ立會ヒ得ヘキ條件ノ下ニ爲サレタルニ拘ラス相手方カ期日ニ立會ハサルトキハ調書作製ノ意思ナキモノト看做スヘシ(ロ)調査ニ立會フト雖モ明ニ拒絶セル場合ハ勿論拒絶ノ意思明示セラレサルモ行爲又ハ不行爲ニ依リ拒絶ノ意思ヲ認知シ得ヘキ場合例ヘハ言フ左右ニ託シテ謂ナク異議ヲ唱ヘテ止マサルカ如キ或ハ調書ニ記名捺印セサルカ如キ場合亦然リハ疑ハシキハ異議ヲ唱フル場合ニシテ調書ヲ作製スルコトニ對シテハ必スシモ異議ナシト雖モ其ノ作製スヘキ調書ノ内容ニツキ意見ノ合致ヲ見ルニ至ラサル場合トス此ノ場合ニハ異議ヲ後日ニ留メ得サラシムルニ於テハ不合理ノ觀アル博士ノ説ノ如シト雖モ若シ異議ヲ後日ニ留保セシムルニ於テハ調書ヲ作製シ以テ收用手續ヲ紛糾ヲ來スコトナク速ニ進行セシメント欲スル法ノ目的ヲ達スル能ハサルニ至ラン殊ニ法律カ若シ斯ノ如キ場合ニハ調書ノ作製ヲ必要トシタル者ノ片意ニ於テ作製シタルモノヲ以テ有權的調書ナリトシ異議アル者モ之ニ服スルノ外ナキモノトスルニ於テハ素ヨリ甚シク失當ノ措置ナリト云フ可ク從テ斯カル規定ノ下ニ於テハ余輩ト雖モ異議アラハ之ヲ後日ニ留保シ得ヘキモノト解釋スルヲ以テ條理ノ要求トスルニ躊躇セスト雖モ法律ハ斯ノ如キ場合ニハ市町村長ノ立會ヲ以テ調書ヲ作成セシムルコト、爲スカ故ニ毫モ如上ノ虞ナカルヘシ何トナレハ法律カ持ニ市町村長ノ立會ヲ以テ調書ヲ作製セシムルコト、爲シタル所以ノモノハ調書ノ作製カ立會ヲ求メラレタルモノ、意志ニ依リテ左右セラル、コトナカラシムルト共ニ假令立會ヲ爲サ、ルモ市町村長カ立會ヲ爲スニ依リ立

會ヲ求メラレタル者ノ利益ハ正當ニ代表セラルヘク從テ其ノ利益カ不當ニ害セラル、カ如キ虞ナカラシメンコトヲ期シタルモノナルヘケレハナリ果シテ然ラハ制度自體ニ在リテハ博士カ信スル如ク土地所有者ニ對シ殘忍酷薄ナルモノト云フハ頗ル速斷ニ失セスヤ唯事實問題トシテハ市町村長ニシテ公正ノ地位ニ立テ正當ニ利益ヲ代表セサルカ如キコトアラハ立會ヲ求メラレタル者ノ利益ハ蹂躪セラル、虞ナシトセサルヘキノミ

二意見書ノ不提出 起業者ハ土地ニ關スル權利ヲ取得スル爲土地所有者及關係人ニ協議ヲ遂クルモ協議不調ニ歸シ又ハ協議不能ナルトキハ收用審査會ノ裁決ヲ申請スヘク此ノ申請ハ同時ニ土地所有者及關係人ニ通知スルヲ要シ裁決ヲ申請シタル書類ハ公衆ノ縦覽ニ供セラルヘキハ法律ノ定ムル所ニシテ法律ハ更ニ土地所有者及關係人カ縦覽期間ノ初日ヨリ二週間以内ニ申請書類ニ對シ意見アラハ意見書ヲ提出スルコトヲ得ヘキ旨規定セリ此ノ意見書ヲ法定期間内ニ提出セサルトキハ其ノ効果如何ニツキテハ法ノ直接ノ規定ナシ博士ハ此ノ場合ニハ判例モ殆ト一致スト稱シテ土地所有者及關係人ハ最早起業者ノ申請ニ拘束セラレ其ノ利益ニ於テ争フコトヲ得スト論セラレタリ通常沈黙ハ異議ナキコトノ徵憑トスヘキニ依リ斯ク解釋スルハ至當ナルニ似タリト雖モ是法律ノ規定カ命令的ニシテ意見書ノ提出ヲ義務トシタル場合ニ於テノミ主張シ得ヘキ解釋ニ非サルナキカ本文ノ場合ノ如ク意見書ノ提出ニツキ選擇權ヲ認メタル場合ニハ之ヲ提出スルト提出セサルトハ素ヨリ任意ナリト謂フヘシ從テ若シ特ニ不提出ニ對シ不利益ナル効果ヲ附セント欲セハ法律ハ此ノ旨明言セサル可ラサルモノニ非サルカ殊ニ舊法ニハ特ニ此ノ場合ニツキ明文ヲ設ケ期限ヲ過クルトキハ意見ヲ申立ツルコトヲ得サルヘキヲ規定シ草案ニ於テモ曾テ期間内ニ意見書ヲ提出セサルトキハ異議ナキモノト看做シタルコトアルカ故ニ本法カ之ト同一ノ意見ヲ探ラントスルニアラハ須ラク同一ノ規定ヲ設ク可カリシモノト解スヘキニ於

テオヤ故ニ所有者カ法定期間内ニ意見書ヲ提出セサレハトテ收用審査會ハ必スシモ起業者ノ申請ニ從テ裁決ヲ爲スヲ要スルモノニ非ラサルヘシ

三、收用ノ時期 凡ソ物ノ滅失毀損ニ對スル危險ハ所有者ニ歸スルヲ原則トスルカ故ニ危險ヲ負擔スヘキ者ハ審査會ノ裁決アリタル後ニハ起業者ナル以上ハ裁決アリタル時ヲ以テ收用ノ効果發生時期トスルヲ條理トスルカ如キニ係ラス收用法ハ起業者ハ收用ノ時期ニ於テ所有權ヲ取得スヘキコトヲ規定スルノ傍ニ於テ收用ノ時期ハ審査會ノ裁決ヲ以テ定ムヘキモノト爲スカ故ニ法律ノ規定ハ矛盾セルカ如クニ見ユ於是乎此ノ問題ハ夙ニ法律學者間ニ於テ最入釜敷論争セラル、問題ノ一ナルコト博士ノ言ノ如シ而シテ博士ハ收用ノ効果ヲ發生スル時期ハ所謂收用時期ナリトシ補償金ノ任拂時期ハ此ノ收用時期ヲ以テ終期トスルモ任拂時期即收用ノ時期ニ非ラズ土地物件ノ引渡時期亦收用時期ヲ以テ終期トスルモ引渡時期即收用ノ時期ニ非ラサル旨論斷セラレタリ此ノ點ハ余輩ノ見解亦全ク博士ト同シク復一言ヲ加フルノ要ヲ認メス

惟フニ彼ノ危險負擔ノ理論ニ至リテハ全ク博士ノ説ノ如ク收用又ハ使用セラレヘキ土地物件ノ權利者ハ收用又ハ使用ノ時期迄ニ引渡ノ義務ヲ負フノ點ニ於テ雙務契約ノ場合ニ於ケル債務者ノ地位ニ比スヘク其ノ同一時期迄ニ補償金任拂ノ義務ヲ履行シテ土地物件ニ關スル權利ヲ取得スヘキ起業者ハ同一ノ法律關係ニ於ケル債權者ノ地位ニ相當スヘキニ依リ收用法カ雙務契約ノ場合ニ於ケル危險負擔ノ原則ヲ採用シタルハ洵ニ至當ナリト謂ハサル可ラス

四、土地細目ノ通知 内閣カ事業ノ認定ヲ爲シタル旨官報ニ公告シタル後收用又ハ使用スヘキ土地ノ細目ヲ土地所有者及關係人ヲシテ知ラシムル方法トシテ法律ハ之ヲ公告スルカ又ハ一々通知スルカ孰レカ其ノ一方ヲ採ルコトヲ認メタリ從テ公告スルノ便法ヲ採ルモノ實際ノ例ヲ爲スヨリ博士ハ法律カ土地所有者ニ知ラシムルノ要アリトシテ此ノ規定ヲ設ケタル以上ハ個人ノ

權利ヲ重シテ各所有者ニ通知スルノ手續ヲ行フヲ適當トスト謂キテ實際ノ取扱ニ着目シテハ
 ニ公告ニ加ヘテ通知ヲ爲スノ慣例ヲ作ラシコトヲ以テセラレタリ法律ハ軍機ニ關スル事業ニ付
 キテハ公告セシムルコトナク通知主義ヲ採リタルヨリ見ルモ博士ノ所論ハ其ノ趣旨ニ於テハ頗
 同感ナルモ今之ヲ實際問題トシテ見ルニ小學校又ハ官公署ノ建築ノ用ニ供スル爲必要ナル土地
 ヲ收用スル場合ノ如キニ在リテハ素ヨリ一々之ヲ土地所有者及關係人ニ通知スルモ格別煩瑣ナ
 リトセサルヘシト雖モ土木事業殊ニ河川道路ノ改修又ハ鐵道軌道ノ布設等ノ場合ニ在リテハ收
 用スヘキ土地ノ區域頗廣キニ宜リ之ヲ一々通知スルカ如キハ到底其ノ煩冗ニ堪ヘサルノミナラ
 ス元來土地細目ノ公告ナルモノハ之ニ依リテ起業者ヲシテ土地ニ立入り土地物件ノ調査ヲ爲ス
 コトヲ得セシメ之カ調書ヲ作製シテ之ニ基キ土地ニ關スル權利ヲ取得スル爲協議ヲ開始スル等
 收用手續ヲ進行セシメ得ルノ點ニ於テ收用法上重要ノ地位ヲ占ムルカ故ニ法律ハ公告又ハ通知
 ニ附スルニ種々ナル效力ヲ以テスルコトアリト雖モ(例ヘハ公告又ハ通知ヲ以テ審査會ノ裁決ヲ
 求ムル期間ノ起算點ト爲シ又ハ一面ニ於テハ收用スヘキ土地ノ形質ヲ變更シ工作物ヲ施設スル
 等土地所有者及關係人ノ行爲ヲ拘束スルト同時ニ他ノ一面ニ於テハ起業者ノ側ニ於ケル事業ノ
 變廢ニ因ル土地所有者側ノ損失ニ對シテ補償ノ責ヲ負ハシメ以テ起業者ヲ拘束スル時期ノ始期
 ト爲スカ如キ是ナリ)公告又ハ通知スヘキ事項ハ收用又ハ使用スヘキ土地ノ細目ニ止マルカ故ニ
 之ニ依リ或土地カ收用區域ニ屬スルモノナルコトヲ知ラシムルニ過キス從テ土地所有者及關係
 人ハ之ニ依リ其ノ土地ノ如何ナル部分カ如何ナル設計ノ爲幾何收用セラルヘキカハ素ヨリ之ヲ
 知ルニ由ナキカ故ニ土地所有者及關係人カ公告又ハ通知ニツキテ有スル利害ハ決シテ著シカラ
 サルモノト謂ハサル可ラス而シテ法律カ收用又ハ使用スヘキ土地ノ細目ヲ公告セシムルハ管ニ
 特定ノ土地所有者及關係人ヲシテ其ノ權利ヲ有スル土地物件ニツキテ收用又ハ使用ノ免レサル

コトヲ覺知セシムルニ止ラス又以テ一般取引界ニ於ケル不特定ノ公衆ヲシテ特定ノ土地物件ヲ收用又ハ使用セラルヘキ運命ニ在ルコトヲ了知セシメ其ノ不知ヨリ往々ニシテ招キ易キ損失ヲ一般ニ向テ未然ニ豫防スルノ極メテ必要ナルニ出ツルモノナル事トヲモ思ハサル可ラス斯クノ如ク解釋スルトキハ博士カ法律ハ公告スルカ又ハ通知セヨト定メ何レカ其ノ一ヲ爲セハ足ルモノトスル故極メテ簡便ナル公告ニ依ルハ自然ノ事ナリト云ヒテ公告ニ止ムルハ唯手續ヲ簡單ナラシムルノ趣旨ニ出ツルモノト解セラルハ會々博士カ餘ニ土地所有者ノ利害ノミニ着眼セラレタル結果ニシテ恐ラクハ偏見ノ譏ヲ免ル能ハサルヘシ之ヲ沿革ヨリ見レハ舊法ニ在リテハ内閣ニ於テ認定シタルトキハ官報ヲ以テ起業地ヲ公告セシムヘキコトヲ規定シタルモ其ノ土地ノ細目ニ至ルマテ一々内閣ニ於テ公告スルハ其ノ煩ニ勝ヘサルノミナラス其ノ必要モナキニ依リ實際ニ於テハ内閣ノ公告ハ其ノ大要ニ止メ其ノ細目ニ至リテハ地方長官ヲシテ之ヲ公告セシメ來レルニ依リ之ヲ法律ノ規定ト爲シタルモノニシテ其ノ淵源亦頗遠ク一般ニ公告ヲ以テ收用區域了知ノ唯一方法ナリト信シ孰レノ土地所有者及關係人ト雖モ公告以外ニ各別ニ通知ヲ受クヘキモノトハ信セサルヲ以テ別ニ通知セシムルニ非サレハ知ラサルコトアルヲ慮ルハ恐ラクハ杞憂ニ過キサルヘシ而シテ若シ夫レ博士カ土地所有者ハ實際知ルヘク知ラサルノ理ナシト謂ハハ公告モ通知モ爲サシムルノ必要ナシト論セラルハ至リシハ唯土地所有者アルヲ知リテ公衆アルヲ忘レタル議論ニシテ素ヨリ批評ノ限リニ在ラサルナリ殊ニ軍機ニ關スル事業ニ付通知主義ヲ採リタルハ察スルニ機密ヲ守ルノ理由ニ出テタルモノナルヘク之アルニ依テ直ニ一般ニ通知主義ニ依ルノ注意ナルコトヲ推知スルニ足ラサルヘシ

五 違法裁決ニ對スル救濟

博士ハ更ニ土地收用ニ關スル行政訴訟ハ訴願ト共ニ裁決書ノ謄本ノ交付ヲ受ケタル日ヨリ二週間補償金額ニ付キ司法裁判所ニ出訴スルニハ三ヶ月以内トシ極メ

テ短キ期間ノ定ヲ爲シタルコト及訴願訴訟ハ事業ノ進行及土地ノ收用又ハ復月ヲ俾ルコトヲ爲シタルコト及訴願訴訟ニ對シテ訴願訴訟應ニ行政上ノ救濟ヲ仰キ又ハ法廷ニ其ノ主張ヲ貫カント欲スルモ證據ハ滅スルコトアルヲ免レサルコト等土地所有者側ノ爲ニ不利益ナリト見ユル事項ヲ指摘シ最後ニ内閣ノ認定ニ基キ土地ノ細目ヲ公告シタル以上ハ其ノ土地ハ當該公益事業ニハ缺ク可ラサルモノトシテ定マルカ故ニ假令土地ノ一部カ其ノ事業ノ爲ニ不必要ナルコトヲ理由トシテ争フコト能フ認定ニ對シテハ當否ヲ争フ途ヲ認メサルニ依リ其ノ不必要ナルコトヲ理由トシテ争フコト能ハサルハ頗ル土地所有者ノ爲ニ迷惑ニシテ躊躇セサル可ラサルコトヲ述ヘラレタルモ此ノ理由ニツキテハ一言モ其ノ權威アル學說ヲ公ニセラレザリシハ余輩ノ深ク惜シム所ナリ

抑收用法ハ訴願及訴訟ニツキ特ニ一章ヲ設ケ之ヲ許スヘキ場合ヲ規定シタルモ内閣ノ事業認定ニ付キテハ訴願訴訟ヲ許サハルカ故ニ起業者又ハ土地所有者及關係人ハ此ノ認定ニ對シテハ其ノ當否ヲ争フコト能ハサルハ論ヲ俟タズ併此ノ認定ナルモノハ或事業ノ收用法ヲ適用スルコトヲ得ヘキ公益事業ナルコトヲ確定スルモノニシテ其ノ事業所要地トシテ收用スルノ必要アル土地ノ細目ハ地方長官ノ公告ニ依リテ初メテ明ナルニ至ルモ既ニ述ヘタル如ク此ノ公告ハ之ニ依リテ收用スヘキ土地カ具體的ニ確定スルニ至ルモノニ非ラス其ノ區域ハ協議ニ依ルモノハ格別否ラサルモノハ皆收用審査會ノ裁決ニ於テ定マルヘキモノナルヲ以テ起業者ノ提出ニ依リ市町村長ニ下付セラレタル事業計畫書及圖面カ縱覽ニ供セラレタルトキニ能ク縱覽シテ法定期間内ニ意見書ヲ提出スルコトヲ得ルカ故ニ意見アラハ争フノ機會アルモノト謂ハサル可ラス唯法律ハ地方長官ノ公告又ハ通知ノ後ハ行政廳ノ許可ヲ得スシテ土地ノ形質ヲ變更シ又ハ工作物ノ新築改築増築若ハ大修繕ヲ爲シ又ハ物件ヲ附加増置シタル土地所有者又ハ關係人ニ對シテハ之ニ關スル損失補償ノ請求權ヲ認メサルト共ニ起業者ニ對シテハ事業ノ廢止變更ニ因リテ受クル

土地所有者又ハ關係人ノ損失補償ノ義務ヲ認メタルハ頗當ヲ得タルカ如クナルモ此ノ法律ノ規定ヲ受ケタル施行令ハ起業者ノ事業ヲ廢止變更シタルニ因リテ土地ヲ收用又ハ使用スルノ必要ナキニ至リタルトキハ起業者ニ委ヌルニ地方長官ニ届出ツルノ義務ヲ以テシ其ノ届出ヲ俟テテ初メテ之ヲ公告又ハ通知スルノ制ヲ執リ或土地カ事業ノ爲メ必要存續スルヤ否ヤノ決定權ハ恰モ起業者ノ掌中ニ存スルノ觀アルカ故(施行令第10條參照)ニ博士ノ引用セラレタルカ如ク現場ニ就キテ見レハ線路ノ布設ナク又倉庫ノ建物ナク唯貸地ノ形ト爲リテ諸種ノ商人カ營業ヲ爲ス等内閣ノ認定シタル事業ノ爲ニ全ク不必要ノ姿ヲ呈スル場合アリト雖モ收用處分ヲ受ケタル者ヨリ一旦收用セラレタル土地カ收用又ハ使用ノ必要ナキニ至リタルコトノ確定ヲ求ムル途ナキニ至ラシメタルモノト謂フヘク斯ノ如キハ蓋收用法ノ精神ニ非ラサリシナルヘク從テ此ノ施行令ノ規定ハ適當ノ機會ニ於テ改正ヲ試ムルニ非サレハ收用法カ動モスレハ土地所有者ノ利益ヲシテ不當ニ起業者ノ蹂躪スルニ任セシムル嫌アルノ譏ヲ免カル能ハサルヘキヲ恐ル

第三收用法ノ精神 以上述ヘタル事項以外博士カ收用處分ノ性質公益事業認定ニ關スル立法收用法上ニ於ケル協議ノ性質等法律上ノ解釋ニ付キテ個々ニ述ヘラレタル點ハ凡テ學者間ノ通説ト認ムヘク余輩復何等贅言ヲ費スノ要ヲ認メス乍併博士カ口ヲ極メテ批判セル論旨ハ之ヲ要スルニ收用法カ起業者ノ保護ニ急ナラントスルノ結果土地所有者側ノ受クル苦痛ヲ忘レタルコトヲ提示セラレント欲スルモノ、如ク解セラル是果シテ博士ノ真意ナルヤ否ヤ而シテ斯ノ如ク批評スルハ收用法ノ正當ナル解釋ナリヤ否ヤ余輩ノ不敏ナル烈日ノ霜ヲ解クカ如キ概アル博士ノ講義ヲ拜聽シテ聊感ナキ能ハス依テ茲ニ極メテ簡單ニ余輩ノ信スル所ニ依リテ收用法ノ精神トスル所ノ一端ヲ叙シ併セテ識者ノ叱正ヲ乞ハント欲ス

今土地ノ收用ニ關スル法制ヲ按スルニ其ノ淵源頗遠ク諸國ノ憲法ハ皆我國ト同シク其ノ正條ニ

於テ必ス個人ノ所有權ハ侵ス可ラサルモノナルノ大原則ヲ明定シテ私權ヲ保障セサルハ莫シ元來此ノ私權ナルモノハ一般取引界ニ於ケル私法上ノ人格者相互ノ間ニ於テ對抗シ得ヘキ權利ニシテ國法ニ依リテ認メラレタルモノナリ然ルニ國法ハ謂フ迄モナク社會ニ於ケル人類共同生活ノ秩序規準ニシテ依リテ以テ人類相互間ニ行爲及意志即各人ノ貨物ニ對シテ有スル欲望ヲ満足セシムル所以ノ方便ヲ制限スルト共ニ人ニ與フルニ目的利益ノ一定範圍ヲ以テス而シテ一定ノ利益範圍ニシテ意志ノ力ヲ以テ主張シ得ヘキモノハヤカテ私權ノ内容ヲ爲スモノナリ知ルヘシ私權ハ素ヨリ國家ノ權力ニ傳來スル所ニシテ國權ニ對抗スルノ權利ニ非ラス國家ハ何時ニテモ隨意ニ之ヲ制限沒收シ得ヘキヲ本性トスヘキヲ以テ是國家若シ一定ノ公益事業ノ爲ニ特定ノ私有地ヲ必要トシ若ハ非常災害等ノ場合ニ特定ノ私有物件ヲ必要トセハ之ヲ取上ケ得ヘク私人ハ斯カル國權ノ發動ニ對シテ所有權ノ内容ニ屬スル意志ノ力ヲ以テ拒ムコトヲ得サルヘキナリ乍併若シ何時ニテモ斯クノ如キ狀況ニ放置シテ願ミサルニ於テハ私權ノ存在ハ安固ナルコトヲ得ス是即憲法カ所有權不可侵ノ原則ヲ認メ國家モ亦國法ノ認ムル私權ヲ尊重スヘキコトヲ宣言シ公益ノ爲必要ナル處分ヲ以テ所有權ヲ侵サントスルニハ必ス法律ヲ以テ定ムル所ニ依ラサル可ラサルコトヲ規定セル所以ナリ其公益上必要ナル處分ノ最主要ナルモノハ所謂公用徵收ナリ凡ソ公共ノ利益ト爲ルヘキ事業ヲ施設經營スルハ依テ以テ國家ノ存立發達ヲ圖ル所以ナリ而シテ其公共ノ利益ト爲ルヘキ事業ノ爲ニ必要ナル土地物件ニシテ私人ノ所有ニ屬スルモノヲ剝奪制限シテ新ニ權利ヲ設定スルノ處分ヲ公用徵收ト謂フ公用徵收ナル處分ハ國家ノ存立發達ヲ期スル上ニ於テ必要ナル制度ニシテ其ノ私權ヲ剝奪制限スルハ實ニ必要已ムヲ得サルニ出ツ之ヲ處分ノ形式ヨリ見レハ個人ノ權利ヲ剝奪スルモノナルカ故ニ此ノ處分ハ夫レ自體既ニ博士カ力說セラレシ如ク洵ニ壓制ト見ユルニ相違ナシ況ンヤ之ヲ主觀的ニ收用處分ヲ受ケタル者ヨリ

觀レハ暴戻是レヨリ甚シキハ莫カラン何トナレハ此ノ場合ニハ法律カ認ムル私權行使ノ意志能
力ハ毫モ發動ノ餘地ナケレハナリ乍去之ヲ處分ノ目的ヨリ觀レハ公共ノ利益ト爲ルヘキ事業ノ
爲ニ新ナル權利ヲ設定スルモノニシテ其ノ國家ノ存立發達ニ寄與スルノ功ハ頗ル大ナルモノナ
リ之ヲ國家ノ職能ニ顧ミレハ寧是當然ノ事例ナリト謂ハサル可ラスサレハ博士亦土地收用ノ法
制ハ公益ノ爲個人ノ權利ヲ犧牲トスルニ在リテ國家ノ制度トシテハ必ス認ムヘキ當然ノ事理ナ
ルコトヲ認メラレタルハ素ヨリ至當ナリ斯ノ如ク公用徵收ナル處分ハ國家ノ法制トシテ固ヨリ
然ルヘキコトニ屬スルモ個人ハ之ニ依リテ必スヤ財産上ノ損失ヲ受ケスト云フコトナシ而シテ
此ノ財産上ノ損失ハ決シテ之ヲ處分ニ會ヘル者ノミノ負擔ニ任セテ満足スヘキニ非ラス故ニ泰
西諸國ノ立法ニ在リテハ憲法ニ於テ所有權不可侵ノ原則ヲ確立スルト同時ニ公益上必要ナル處
分ハ必ス補償ニ代ヘテ行フヘキコトヲ明定ス惟ニ公用徵收ナルモノハ素ヨリ私人ノ財産ヲ滅減
スルヲ目的トスルモノニ非ラス又決シテ個人ノ過失又ハ犯行ニ對スル制裁トシテ課スル罰金又
ハ過料ノ如キモノニモ非ラスシテ全ク特定ノ財産其ノ者カ特定ノ公益事業ノ爲ニ必要ナルノ理
由ニ基クモノトス而シテ其ノ公益事業ノ爲ニ私人ノ權利ヲ徵收スルハ一ニ國家ノ目的ヲ達スル
所以ナルヲ思ヘハ之カ爲ニ私人ノ喪失スヘキ財産ノ價格ハ畢竟スルニ國家ノ政費ニ外ナラサル
モノト解スルヲ至當トセン然ルニ國家ノ政費ニ關スル負擔ハ凡近世ノ國家ニ在リテハ國民ノ間
ニ平等ト爲スヘキヲ本則トスルカ故ニ若シ公用徵收ニ依リテ無償ニ個人ノ財産ヲ徵收セシムル
ニ於テハ個人ニ對シ理由ナクシテ特別ニ重キ負擔ニ任セシムルコト、爲リ負擔平等ノ大原則ニ
悖リ結局公用徵收ハ眞ニ暴戻誅求ノ虐政ト爲ラン是諸國ノ立法ニ於テ必ス賠償スヘキヲ條件ト
シ土地收用法ニ在リテモ完全ナル補償ニ代ヘテ收用シ得ヘキコトヲ規定スルモノアル所以ナリ
我憲法ハ此ノ義ヲ明言セス單ニ法律ノ定ムル所ニ依ル下規定シタリト雖モ其ノ精神ハ素ヨリ泰

西諸國ノ憲法ト同一ナリト謂ハサル可ラス以是我國ニ在リテハ法律ニ依リ公用ノ爲利權ヲ特別
 又ハ剝奪スル場合ニハ必スヤ特ニ補償ニツキテ必要ナル規定ヲ設ケ以テ國家ノ強制處分ニ因リ
 テ私人ノ受クル損失ヲ補償シ負擔ヲシテ公平ナラシメンコトヲ期セサルハ莫シ其ノ最著シキ場
 合ハ土地ノ收用ニ於テ見ル所ニシテ我國法ハ此點ニ付キ特ニ一章ヲ設ケテ詳細ナル規定ヲ置キ
 第一ニ收用スヘキ土地物件ニ付テハ相當ノ價格ニ依リテ其ノ所有者及關係人ノ受クル損失ヲ補
 償セシメ其ノ地上ニ存スル物件ハ移轉料ヲ補償セシムルコト、シ又土地ノ一部カ收用又ハ使用
 セラル、ニ因リテ殘地ノ價格ヲ減損スル等殘地ニ關シテ生スヘキ損失ヲ補償セシメ其ノ殘地カ
 從來ノ用途ニ供スル能ハサルニ至ルトキハ全部ノ收用ヲ請求スルコトヲ得セシメタルノ外收用
 ニ因リテ道路溝渠塙柵其ノ他ノ工作物ノ工事ヲ必要トスルトキハ其ノ費用ヲモ補償セシメ其ノ
 他收用ニ因リテ所有者及關係人ノ通常受クヘキ損失ハ之ヲ補償セシムルコト、シ其ノ土地ノ使
 用ニシテ三ヶ年以上ニ宣リ又ハ土地ノ形質ヲ變更シ若ハ使用スヘキ土地ニ建物アルトキハ特ニ
 所有者ニ認ムルニ收用請求權ヲ以テシタル外事業ノ變廢ニ因ル損失補償ノ義務ヲ以テスル等荷
 モ收用ノ前後ニ依リテ被收用者ノ有スル資産ヲシテ増減ナカラシメンコトヲ期セリ加之收用ノ
 效果發生時期ニツキテモ前述ノ如ク收用ノ時期ナリトシ起業者ノ補償金拂渡時期ト所有者ノ土
 地物件引渡時期トヲ定ムルニ此ノ時期ヲ以テ終期ト爲シ恰モ雙務契約ニ於ケル同時履行ノ如キ
 原則ヲ採用シ起業者カ此ノ時期迄ニ補償金ニ關スル義務ヲ履行セサルトキハ收用審査會ノ裁決
 ハ其ノ效力ヲ失フヘキモノトシ若ハ收用スヘキ土地物件ノ滅失又ハ毀損ニ對スル危險ハ收用審
 査會ノ裁決以後ニ在リテハ其ノ引渡以前ニ在リテモ之ヲ以テ起業者ノ負擔ト爲シタルカ如キ或
 ハ收用ノ目的ニ供シタル事業ノ廢止其ノ他ノ事故ニ因リ收用シタル土地ニシテ不用ニ歸スルモ
 ノアルトキハ補償價格ヲ以テ買戻スコトヲ得ルノ權利ヲ舊所有者又ハ其ノ相續人ニ認メタルカ

如キ皆是收用法カ如何ニ私益ノ無益ニ公益ノ犠牲ト爲ルコトナカラシメンコトヲ圖リタ
 一斑ヲ窺知スルニ足ラン
 要スルニ國法カ既ニ私産ノ制度ヲ認メ之ニ不可侵ノ原則ヲ確認シタル以上ハ私益ノ保護ハ法ノ
 目的トスル所ナルハ勿論ナルモ私益カ若シ公益ト競合スル場合ニ於テハ公益ヲ進捗スル爲私益
 ヲ犠牲ニ供スルハ蓋已ムヲ得サルモノナリトシテ認メタルモノ是土地收用ノ制度ナリト雖モ此
 ノ犠牲ヲシテ客觀的ニ絶無ナラシメンコトヲ期スル亦收用法ノ大精神ナリ蓋シ土地收用ニ關ス
 ル立法ハ一面ニ於テハ公益事業ノ進捗ヲ圖ルニ於テ間然スル所ナキヲ期スルト共ニ他ノ一面ニ
 於テハ私益カ理由ナクシテ公益ノ爲ニ犠牲ト爲ルコトナカラシムル爲損失ノ補償ヲシテ完全ナ
 ラシメ以テ此ノ兩者ノ調和ヲ圖ルニ努メサル可ラス若シ夫レ公益ヲ計ルニノミ急ナラシムルニ
 私益ノ保護ハ完キヲ得スシテ經濟的活動ハ歇ムニ至ルヘク之ニ反シテ若シ私益ニノミ着眼シ唯
 其ノ完カラサルコトナキヤヲ憂フルニ於テハ收用ノ目的タル公益ハ遂ニ沮マレテ之ヲ進ムルニ
 由ナカラシ然ルニ土地收用ノ制度存在ノ理由カ私益ノ保全ニ在ラス寧ロ公益事業ノ進捗ヲ圖ル
 ニ在ル以上ハ會々法規カ公益ニ備フルコト厚シトスルモ之ヲ客觀的ニ見テ私益ノ保護ニ缺クル
 所ナキ限リハ制度當然ノ成果ト謂ハサルヲ得ス若シ斯クノ如キ結果ヲ恐レテ戰々トシテ唯私益
 ノ保護ニ於テ完カラサルモノアルナキヤヲ慮ルニ於テハ制度ハ其ノ存在ノ必要ニ副ハサルニ至
 ラン是收用法カ特ニ收用手續ニツキテ注意ヲ拂ヒ可成迅速ニ其ノ完了センコトヲ期セル所以ニ
 非ラスヤ然ルニ之ヲ以テ土地所有者ニ對シテ甚苛酷ナリト解スルカ如キコトアラハ是半面ノ觀
 察ノミ反之收用法カ被收用者ノ收用前ニ有シタル財産價格ノ保全ヲ念トシテ損失補償ニ關シ周
 到ノ規定ヲ爲セルヲ見テ收用法カ公益事業ノ發達ヲ阻害シ起業者ノ利益ヲ輕視スルモノナリト
 解スルモノアラハ人其ノ獨斷ナルニ驚カン收用法ハ實ニ依リテ以テ公益事業ノ進捗ヲ本位トシ

之ト競合スル私益ノ保全ヲ圖ルニ在リ解スル者豈深ク思フ茲ニ潛メスシテ可ナランヤ夫レ然リ
收用法ニ於テ最留意スヘキハ適用シ得ヘキ事業ノ選擇宜シキヲ得ルニ在リ我國法ハ此ノ事業ヲ
行政廳ノ認定ニ任スノ主義ヲ採リタルニ依リ其ノ認定ヲ制限スルニ法律ノ規定ヲ以テシ其ノ事
業ヲ列記シタルハ大體ニ於テ甚當ヲ得タルモノト謂フヘシ其ノ事業ノ種類ニ至リテハ論議ノ餘
地ナシトセサルモ今ハ之ヲ措カン若シ事業ノ選擇ニシテ當ヲ得ルニ於テハ收用法ノ規定ハ思フ
ニ非難スルノ餘地ナカラシ(完)